



空き家利活用コンテスト2023 優秀賞 (ベストアイデア賞)



住宅部門

事例 07

YY邸

少年時代を過ごした古家を改修
縁側をウッドデッキにスタイル一新



もともとの間取りをそのまま生かして改修したLDK。パントリースペース、階段ホールがつながっており、ゆとりが感じられる広さ。空間を緩やかに仕切っている壁はいい目隠しであり、ちょっとしたアクセントにもなっている。

受賞者が小学生まで暮らしていた家は、祖父母が亡くなってから20年近く空き家になっており、老朽化が進んでいた。解体も考えたが、再建築不可の土地。その隣地に両親と2世帯で生活していた受賞者は、自分たち若い世帯の住居にすることを検討。どこまで資金をかけ、どこをどの程度直すのか、そのバランスを重視して、今回の改修は1階部分のみにしたという。

既存の間取りを生かしつつ、2間続きの和室は広々としたワンルームの主寝室(多目的室)に。家の床板は全て鳥取県産材、木の温もりが素足に心地良い。

2方を囲んでいた縁側を思い切って半屋外に変更、ウッドデッキに仕上げた。あえて縁側の雨戸を残し、日射量を抑えることで夏の暑さ対策に。また、居住エリアに限定して断熱工事を行って省エネを意識。真夏でも1時間程度の冷房で過ごせる。コスト縮減と建物の維持管理を容易にするため、使用しない奥側の2部屋は撤去して減築するという工夫もあった。

思い出の古家は、受賞者のアイデアにより息を吹き返した。そして2階部分の改修、DIY作業や趣味を楽しむ土間スペースの活用と、次の夢が膨らんでいる。



階段下の収納に扉はなく、日用品の出し入れがしやすい。

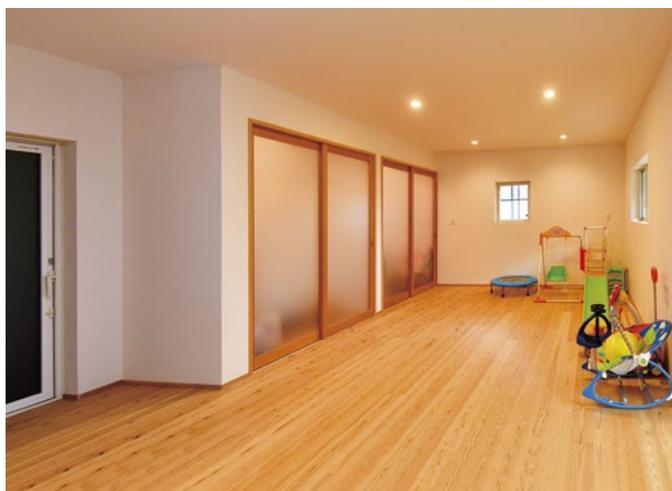
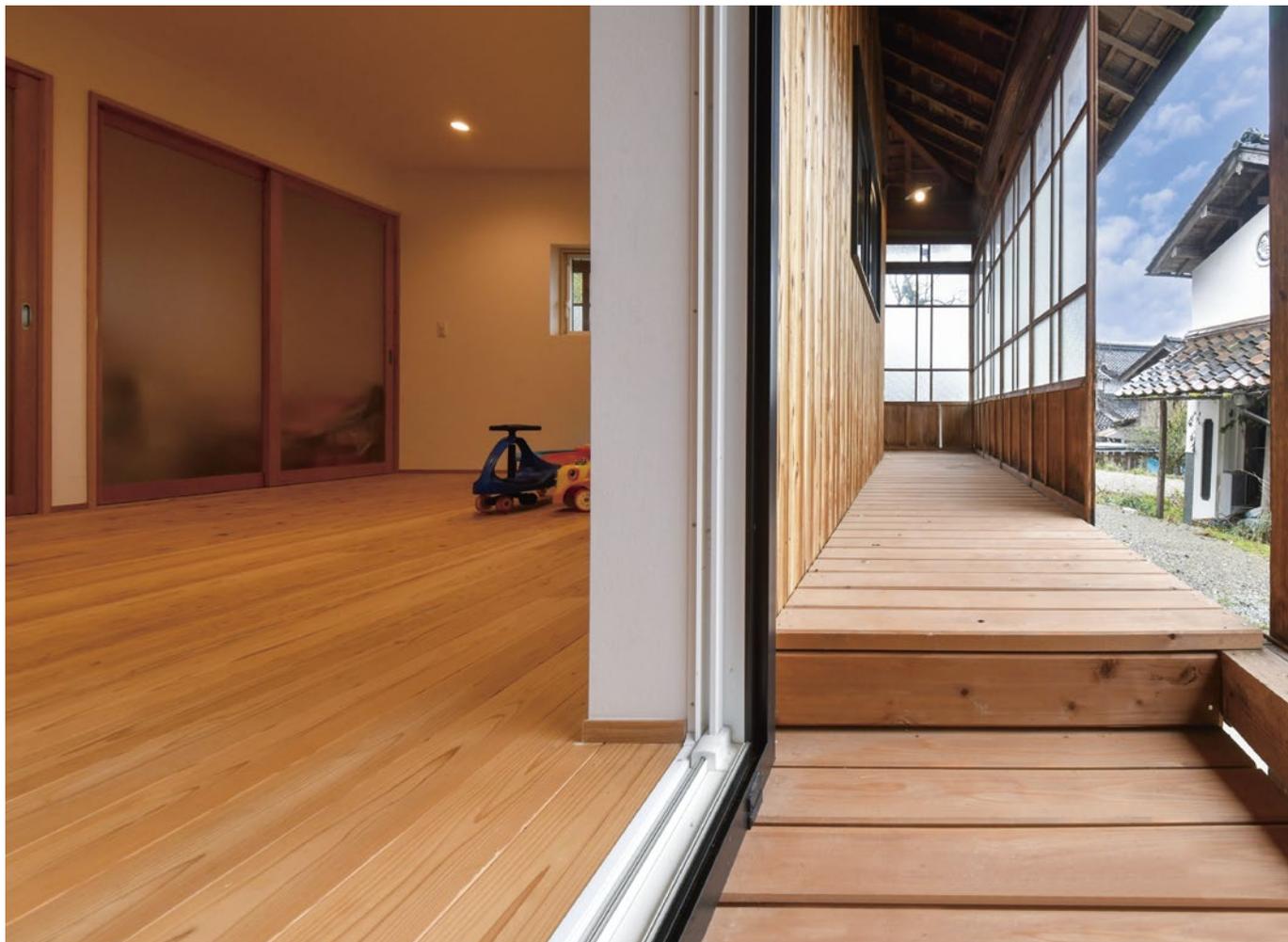


居住エリアの要所要所に耐力壁を入れて補強。同時に、冷暖房費を抑えられるよう断熱改修も行っており、省エネ化を実現している。階段から上の2階部分は未改修。



LDKの隣にある15畳の主寝室。今は多目的室として使っており、子どもの遊び場になっている。床には鳥取県産の杉材を使用。幼い子どもの素足にも優しい。





ウッドデッキに変わった縁側。もともと内壁だった位置には、耐震及び断熱を施した分厚い外壁を新設。雨戸はそのまま再利用、昔ながらの造りに懐かしさがこみ上げる。雨戸としてだけでなく夏の直射日光を防ぐ役割も担っており、おかげで室内は冷暖房した温度が長く保たれ、過ごしやすい。



[DATA]

- 【所在地】八頭郡八頭町 【構造】木造2階建て
- 【築年月】昭和30年頃 【改修後の用途】住宅
- 【間取り構成】LDK、パントリースペース、主寝室(多目的室)、浴室、トイレ、前室(物置)、一部減築、2Fは未改修
- 【改修期間】2020年5月～2020年9月
- 【改修費用】約800万円
- 【施工者】やまのすみか株式会社